

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.26

広島城天守台石垣が 中国地方石垣百選に認定されました！

広島城天守台石垣が、石垣を讃える会によって中国地方石垣百選に認定され、このほど認定証書が同会の代表世話人 佐々木卓也氏から広島城の石田館長に手渡されました。



中国地方石垣百選認定証



広島城天守台の石垣

石垣は一見頑丈で耐久性がありそうですが、長い年月の間には崩れたりゆるんだりするため、そのたびに積み直さなければなりません。そのため、現在広島城跡内にある石垣のうち、広島城を築城した毛利輝元の時代の石垣がそのまま残っている部分は必ずしも多くはなく、その後の福島正則や浅野氏の時代、あるいは近代になってから積み替えられたものが多いと考えられています。そうした中で天守台の石垣は典型的な毛利氏時代の石垣といえます。

それでは天守台の石垣にはどのような特徴があるのでしょうか？順番に見てみましょう。

① 天守台石垣に用いられている石にはカキなどの貝殻がくっついたものがあります。これは、海



天守台の石垣に付着した貝殻

岸に転がっていた石をそのまま持ってきて使ったためだと思われます。

② 天守台の石垣は、大小さまざまな石を少しだけ加工して積み、間に小さな石が詰め込まれています。これは、自然石をそのまま積む「野面積み^{のづら}」と呼ばれる積み方と、積み石の大きさをおおまかにそろえ、接合部分を加工するとともに、間に小さな石を詰めて隙間を減らした「打ち込みハギ」と呼ばれる積み方の中間的な手法といわれています。広島城跡内には「打ち込みハギ」で築かれた石垣もありますが、これは福島氏時代以降に築かれたものとされています



天守台から東に伸びる石垣の先端付近 打ち込みハギで築かれ、刻印が見られます。福島正則時代に築かれたとされます。

③ 天守台石垣の石の表面にはノミで削った細い筋状の跡があります。これは石材を積み上げたあとで、表面を削って平らに仕上げたものです。このような加工が施されている一方、天守台石垣の石には刻印は見られません。広島城跡内の石垣では、刻印は福島正則が築いたとされる部分に多く見られます（逆に特定の刻印があることが福島正則時代の石垣である証拠ともされます）。

④ 天守台の石垣の隅の部分は、江戸時代になってから広く用いられる算木積みになっていません。算木積みは石垣の隅が崩れないよう、隅石と呼ばれる細長い直方体の石材の長辺と短辺を左右交互に振り分けて積み上げる工法で、隅石の長辺の間に脇の石がはさまれて一体化することで崩れにくくなります。広島大学の三浦正幸教授によれば、算木積みが全国的に用いられるようになるのは関ヶ原の戦い後の慶長 10 年（1605）頃からとされ、これが算木積みが用いられていない広島城の天守台石垣が毛利氏時代のものとする大きな根拠になっています。

⑤ 毛利氏時代は石垣の築造技術が未熟だったためか、天守台の上面は正確な長方形にはならず、



二の丸太鼓櫓石垣 隅が算木積みになっています。

南辺が北辺より約 0.5m 長く、東辺が西辺より約 1.2m 長い、いびつな四角形になっています。そのため、天守閣も 1・2 層の平面形状は天守台の上面そのままにゆがんでいるのです。

⑥ 広島城の天守台の構造的な特徴としては、内部に穴倉（地階）が設けられていないという点があります。初期の天守台には内部を穴倉とする場合が多くありますが、広島城の場合内部には天端まで碎石がいっぱいに詰められていました。

このような特徴を持つ広島城の天守台石垣は、築城時以来の長い年月に耐え、古い姿をそのまま保ってきました。昭和 20 年（1945）8 月 6 日、原爆によって天守閣が倒壊した際にも崩れ落ちることはありませんでしたが、もしこのとき天守閣が炎上していたら、表御門や中御門の石垣のように、天守台の石垣も火災による熱で大きな損傷を受けたことでしょう。



原爆後の火災による熱で損傷した中御門の石垣

原子爆弾によって失われた天守閣を昭和 32～33 年（1957～58）に再建する際には、木造天守にくらべてはるかに重い鉄筋コンクリート天守の重量が石垣にかからないよう、また、天守閣の重みで下の土が外に押し出されないよう、天守台内部をコンクリートで固め、その部分で全重

量を支えるようになっていきます。

こうして広島城の天守台石垣は築城当時の姿を今に伝えているのです。

なお、石垣を讚える会では、「中国地方は生きた石垣博物館」を合言葉に、中国地方に残る日本古来の伝統技術によって築かれた石垣を石垣文

化の伝統遺産として石垣百選に認定し、文化遺産・観光資源として保存・活用していこうと呼び掛けています。これまでに広島城天守台石垣を含めて20の石垣が石垣百選に選定されました。広島城の天守台石垣とあわせて訪ねてみてはいかがでしょうか。（村上）

選定された中国地方の石垣

- | | | |
|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 1 善福寺石壁景観（広島市佐伯区） | 7 石城山神籠石（山口県光市） | 14 上殿山県流石組景観（広島県安芸太田町） |
| 2 大井谷石垣棚田（島根県吉賀町） | 8 岩国城跡本丸天守台石垣（山口県岩国市） | 15 井仁石垣棚田（広島県安芸太田町） |
| 3 津和野城跡天守台石垣（島根県津和野町） | 9 祝島平氏所有石垣棚田（山口県上関町） | 16 空谷石垣棚田（広島県安芸太田町） |
| 4 旧堀氏庭園築地石垣（島根県津和野町） | 10 観音寺跡築地石垣（広島市安佐北区） | 17 広島城本丸天守台石垣（広島市中区） |
| 5 三谷いしがき棚田（山口県山口市） | 11 万徳院跡築地石垣（広島県北広島町） | 18 広島東照宮築地石垣（広島市東区） |
| 6 小畑石垣棚田（山口県周南市） | 12 吉川元春館跡築地石組（広島県北広島町） | 19 饒津神社築地石垣（広島市東区） |
| | 13 宗玄寺石壁遺構（広島県安芸太田町） | 20 鹿島石川氏所有石垣段畑（呉市倉橋町） |

おしえて！ 広島城博士 13

Q **ねえねえ、この間本丸の隅っこで大きな穴ぼこを見つけたんだけど、いつ・何のためにつくられたの？**



さあ、何でも聞いてみんさい！ 今回の質問はこれ！



A **おうおう、ひさびさじゃのう！**

あれはな、もともと池だったところじゃ。今からだいたい120年前の明治31年(1898)、広島に水道が引かれたことを記念して造られたものなんじゃ。

水道ができるまで広島の人にはな、水を飲むとしたら、井戸水やわき水、または太田川から汲んだ水を買ったんじゃが、これらの水は飲むにはあまりきれいなものじゃなかった。それで、コレラや腸チフスなど、水質が原因で発生する伝染病がよく広まって問題になった。特に明治27年(1894)、日本と清(今の中国)との戦争で広島にぎょーさん兵士や人が集まった。急に人が増えたもんじゃから、きれいな水の確保に軍隊はえろう頭を痛めたし、市内では伝染病がまた流行した。そこで、軍隊専用の水

道を造ろうということになったんじゃ。工事は清との戦争が終わって後、明治29年(1896)から始められ、明治31年に完成した。この水道、市民も使えるようになっていったんじゃ。牛田村(現、東区牛田)には、川の水をくみ上げ、きれいにして送りだす、近代的な水道設備が造られて、翌年の1月から利用が開始された。

池は、水道管を城内に設ける際に造られたんじゃ。中には太田川河岸の石で島が造られ、その中心から噴水が出るという立派なものじゃった。もともとは、池に名前はなかったんじゃが、大正14年(1925)に「桜の池」と名付けられた。昭和20年(1945)の原爆投下までは、下の写真のように本丸内を美しく彩ったんじゃが…おいしいことじゃのう。(山脇)



戦前の「桜の池」の様子 広島城蔵

その昔、広島城は内堀、中堀、外堀という3重のお堀に囲まれていました。中堀の周りには侍屋敷が集まり、外堀の南には町人町が広がっていました。

平成に入ってから、南側の中堀や外堀を発掘調査した時、お堀の中から江戸時代の生活の道具がたくさん出土しました。割れた食器、割れたほうろく(フライパン)、割れたすり鉢、使い古した箸、こわれた下駄、折れた櫛…。で、わかるように、ほとんどが使えなくなったもの、つまりゴミでした。江戸時代には今のようにゴミ収集車はきませんから、土に埋めるなどして自分家のごみは自分で処理しなければなりません。それが面倒くさい人もいました。川に捨てる? いえいえ川は大切な水源ですから、なるべく汚したくないです。

ふとみるとお堀という最適(?)な場所がありました。けしからんことに、一部の人は、お役人の目を盗んではゴミをお堀に投げ込んだのです。「堀にゴミを捨てたらいけんよ」と立て札が立てられましたが、不法投棄は後をたちません。何故お堀にゴミを捨てるのか? それは、そこに

お堀があるからなのでした。

でも、そのおかげで私たちは当時の人々の暮らしぶりを窺うことができるのです。侍屋敷近くの中堀からは高価な焼き物が見つかりました。漆塗りのお椀もみられます。それに比べて外堀のものは、ほとんどが大量生産の安物でした。お椀も質素なものばかり。これだけでもお侍と町人の暮らしの違いがわかります。その他にも、食材と思われる動物の骨なども見つかっていて、どんな食べものを、どんな道具を使って料理し、どんな器で食べていたか想像できます。

そうそう、木製の入れ歯なんていうものも見つかっています。けしからん人達の行為のおかげで、お堀はけっこう素敵なタイムカプセルとなりました。「たかがゴミ、されどゴミ」なのです。

だからといって姐さん、不法投棄はいけませんよ! (岡野)



堀から見つかったゴミ



しろうや!
広島城

編集・発行
財団法人広島市文化財団
広島城
〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話: 082-221-7512
FAX: 082-221-7519
平成23年 1月20日発行

広島城利用案内
開館時間: 9:00 ~ 18:00
(12月~2月の平日は 9:00 ~ 17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで
入館料: 大人360円(280円)
小人180円(100円)
()内は30名以上の団体料金
休館日: 12月29日~1月2日
ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト